

= 支部だより =

東北支部

「(社)雪氷学会東北支部設立 25 周年記念講演会」報告

日本雪氷学会東北支部は 2011 年 2 月 2 日に設立 25 周年を迎えた。これを記念し、東北支部設立 25 周年記念事業の一環として、2010 年 10 月 16 日に山形県新庄市において記念講演会が開催された。図 1 に会場の様子を示す。本講演会の参加者は 50 人であった。

開催の概要を以下に記載する。

(社)雪氷学会東北支部設立 25 周年記念講演会

「雪氷研究の最前線と雪国の未来」

— 日本雪氷学会東北支部の取り組み —

日 時：2010 年 10 月 16 日 13:30～16:00

場 所：新庄市雪の里情報館

〒996-0086 新庄市石川町 4-15

主 催：(社)日本雪氷学会東北支部

後 援：新庄市雪の里情報館

プログラム：

- ・開会の辞
- ・支部長挨拶
力石國男 ((社)日本雪氷学会東北支部長)
- ・支部設立 25 周年記念式典 (感謝状の贈呈)
- ・支部設立 25 周年記念講演
「温暖化時代の雪と市民生活」
力石國男 (弘前大学)

「リモートセンシングを用いた広域積雪分布の推定」

朝岡良浩 (東北大学)

「大地系利雪と融雪を目指して」

横山孝男 (山形大学)

「人工雪を用いた雪氷研究の進展と課題」

佐藤 威

(防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
新庄支所)

・閉会の辞

記念講演会は力石國男東北支部長の挨拶にはじまり、続く 25 周年記念式典では、東北支部の活動を日頃より支援している賛助会員 (7 団体)、特別会員 (13 団体) に感謝状が贈呈された (図 2)。記念講演の内容は、降積雪現象をはじめ、リモートセンシング技術の雪氷学への応用、利雪・融雪、人工雪を用いた雪氷現象の実験など多岐にわたるものであった。

以下では各講演の概要を紹介する。力石氏は、東北支部発足時から現在までの 25 年 (1986-2010 年) の降積雪状況を振り返り、青森の例を見る限り、北陸地方とは異なり、最深積雪と冬期平均気温は、年による変動はさほど小さくなく、温暖化



図 1 会場の様子



図 2 感謝状贈呈の様子

と言われる近年においても積雪深はさほど減少していないことを示した。また社会環境の変化（過疎化、高齢化、都市域の拡大など様々）により、雪に弱い社会になりつつあること、また雪問題そのものが多様化しており新たな対応策が必要であることを指摘した。

朝岡氏は、リモートセンシングによる積雪域の抽出、またそれにより得られた積雪分布と積雪・融雪モデルを組み合わせる手法により広域の積雪・融雪量を推定した例を紹介した。リモートセンシングにより得られた積雪域画像を用いてモデルパラメータや融雪量などを逐次的・空間的に最適化することで、積雪分布を精度良く推定出来ること、またこれらの手法が積雪域の流出予測、水収支の把握に有効な手段となりうることを示した。

横山氏は、自然エネルギーを活用した融雪・利雪を目的として自身がこれまで幅広く手がけてきた大地熱融雪機械設備や、大地熱取得法と伝熱機器の施設の詳細を紹介するとともに、これらの大地熱利用が化石燃料を消費する一般的手法に比べて環境面に優れることを、熱力学的視点に基づき定量的に示した。また雪冷房システムにおける水

平採熱管の有効性や、雪室を活用した乾乾燥実証試験の取り組み事例についても紹介した。

佐藤氏は、人工雪を用いた研究の現状と課題を示した。中谷宇吉郎氏が1936年に世界で初めて低温実験室で雪を人工的に作成して以来、中村秀臣氏による大量降雪装置（霜箱）、さらには東浦将夫氏らの尽力により開発された防災科学技術研究所の雪氷防災実験棟など、降雪装置の大規模化が進み、新雪（新積雪）を対象とした実験的研究が可能となりつつある。しかしながら、現装置では湿雪を降らせる（降雪中に雪を融かす）のが困難であり、近年の温暖傾向に伴い増えつつある湿雪災害の増加に対処するためには、こうした技術的問題を克服し湿雪研究を進めることが今後の課題であると指摘した。

講演者の方々にはお忙しい中、講演をご快諾いただいた。また後援していただいた新庄市雪の里情報館には、本講演会の準備段階から全面的にご協力いただいた。ここに記して深く感謝申し上げます。

（独立行政法人防災科学技術研究所
雪氷防災研究センター新庄支所 根本征樹
（2011年2月11日受付）

北信越支部

「北信越のひろば」原稿募集のお知らせ

支部機関誌『雪氷北信越』第31号（2011年6月発行）の「北信越のひろば」に掲載する原稿を募集しています。ここには、主として支部会員への周知やPRを目的とした自由なスタイルの投稿原稿を掲載し、投稿料収入を支部活動に役立てる計画です。下記の要領に従い、奮ってご投稿下さい。

原稿作成要領

- ・内容：北信越支部機関誌としてふさわしい内容であれば自由とする。例えば、催し企画の案内、研究機関紹介、製品紹介、企業広告、求人や学生募集の情報、絵画、写真、俳句川柳など。

- ・原稿はPDFファイルとし、電子メールに添付して送付する。メール本文には原稿のタイトルと著者名を明記する（目次に掲載するため）。
- ・書式は自由とするが、A4用紙サイズ（縦）1頁または半頁で作成し、上30mm、下20mm（半頁では150mm）、左右各20mmの余白をとる。
- ・原稿はそのままA4判でモノクロ印刷し、また電子版として支部ホームページに掲載します。

原稿送付先：hse-editor@seppy.org

「雪氷北信越」編集委員会宛

投稿の締切：2011年5月22日（日）